



**Bulletin
NO.809**

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

THE Y'S MEN'S CLUB OF KYOTO

2015, 4

68th

CHARTERED 1947

CLUB OFFICE / KYOTO YMCA : Yanaginobanba, Sanjo, Nakagyo-ku, Kyoto 604-8083 Japan Phone(075)231-4388 <http://www.kyotoys.com/>

2014～2015年度 主題

国際会長(IP) Isaac Palathinkal(アイザック パラシンカル)インド

Theme "Talk Less, Do More" 主題『言葉より行動を』

Slogan "Do it Now" 標語「今すぐやろう!」

アジア地域会長(AP) Yaz Okano(岡野 泰和)大阪土佐堀

Theme "Start Future Now" 主題『未来を始めよう、今すぐに』

Slogan "One Asia One World" 標語「ひとつのアジア、世界はひとつ」

西日本区理事(RD) 松本 武彦(大阪西)

主題『響き合い、ともに歩む "To walk together, echoing each other"』

スローガン「-こころ豊かにワイズ活動を展開し、ワイズスピリットをつないでゆく-」

京都部部长(DG) 畑本 誠(京都トニービー)

主題『行雲流水』 "Be Y's men"

強調月間

YMCAサービス 月
ASF

会長	多賀 久貴
副会長	西村 博一 田中 孝明
書記	石若 義雄 三保 俊幸
会計	津村健太郎 合田 太一

今月の聖句

光の子として歩みなさい。

エフェソの信徒への手紙 4章8節



私が勤務している幼稚園では、毎年3月の主題聖句にこの箇所を選びます。卒園、進級する子供たちへの言葉のプレゼントです。卒園する子供たちを見ていると、みんなキラキラしています。みんな優しく、良い子です。この子供達が、これから「光の子」として歩んでいけるように環境を整備するのが、大人である私たちの責務です。子供が犯す問題行動が、報道されています。心が痛みます。子供の問題は、すべて大人の問題と言っても過言ではないでしょう。上から目線で子供を裁くのではなく、自分の問題として、子供と共に歩む道を探し求めたいと思います。

日本聖公会 京都聖マリア教会 司祭 ミカエル 藤原健久

京都クラブ第67代会長 多賀 久貴 主題

『レッツ・ビギン』 “～明日の為に今始めよう～”

少年J～ある夏の記憶

約40年前、私が小学校4年生か5年生頃の夏休みにYMCAからサバエのキャンプに一泊二日で参加したことがありました。

なぜ、その時にYMCAだったかは、分かりませんが、たぶん広告か何かを見た母親が、夏休みにどこにも行く予定が無いのを不憫に思い申し込んでくれて、同級生と一緒に参加したのだらうと思います。その頃は、湖周道路はもちろんなく、キャビンから松林を越えるとすぐに湖岸でした(今のキャビンの場所より湖岸に近い感じでした)。

そこでたくさんのお兄さん・お姉さんに大変お世話になりました。今思うとリーダーの学生の方々です。昼間は水泳やカッター(6人乗り・8人乗りの手漕ぎボート)での競争、また、スイカ割りや近くの水路での魚釣り等、様々な遊びを提供していただき、夜はキャンプファイアで仮装大会(確かインディアンの姿で登場したような記憶があります)等があり、盛り上がった記憶があります。就寝時のキャビンでは、網戸が無いため蚊の大襲撃を受けますが、同室のお兄さん(リーダー)は、何も動じずに部屋中にアースを振り撒き、何事もなかったように就寝されます。

あの時のリーダー達のことは、スポーツマン・スポーツウーマンで、ルックスも良く、何でもできるすごい人というイメージでした。今は当時の彼らの親父さんよりも、年

上になっている私ですが、今でもずっと忘れる事のないカッコイイ永遠のお兄さん・お姉さん達です(現在は60歳前後になられている事でしょう)。

その頃は、YMCAのロゴとツチノコのイラストが入ったお揃いのTシャツが配られていましたので、ご記憶のある人もおられると思います。ワイズメンズクラブのメンバーにもリーダーOB・OGの方々がおられますので、たぶん洩垂れ小僧だった私の面倒をみて下さった方がおられるのではないのでしょうか。40年後の今でも心に残る暑い夏の楽しい思い出を作ってくれたリーダー諸氏に感謝するとともに、これからも子供たちの思い出に残る活動を続けて下さることを願っています。

時代は豊かになりましたが、あの夏の私のように、夏休みになってもどこへも行けない子ども達はいると思います。そんな子ども達が一人でも多くYMCAのキャンプに来てくれれば・・・、そしてカッコいいリーダー達に出会って・・・、一生忘れられない夏の思い出を作りたいと思います。

日々忙しい事を理由にして最近クラブのワークをサポートがちな私ですが、ほんの少しでもリーダー達の側面支援をして、あの日お世話になったお返しが出来ればと思っています。

3月例会出席者及び出席率 在籍者33名
例会出席者26名 ゲスト9名 ビジター7名
メイクアップ3名 3月出席率→87,9%
2月出席率 メイクアップ後確定→96,9%

ニコニコ
3月分 13,000円
累計 77,000円

クラブファンド
累計 697,851円

BF現金ポイント
累計 30,000pt

“ TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT ”



3月4日(水) 京都YMCA国際福祉専門学校-日本語科 卒業留学生にエール



一冊のアルバムが届きました。京都YMCA国際福祉専門学校-日本語科-2014年度-思い出アルバムです。京都クラブが作ったその過程を紹介しようと手に取ったのですが思わず読み込みました。

初級Aから上級Bまで9クラス109名の生徒が写り、寄せ書きや記念写真、文集などが掲載されています。昨年、私が半年間チューターをした韓国の学生が書いた文章を読み、大学に進みたいが国で二年間の兵役をいつ果たそうかと悩んでいた事を思い出しました。学生たちから短歌が寄せられています。本人の了解を得ていないので、こっそり引用します。「外国に、一人で住んで、簡単なはずないだろう、だからファイト」

いずれこの文集アルバムは中国、韓国、モンゴル、フィリピンなどへと海を渡ります。彼らは京都の風や匂いを、そして京都YMCAを思い出してくれるでしょうか。

さて遅くなりましたがアルバム作製でのメンバーの奮闘ぶりを紹介しませう。昨年末からすでにアルバム写真ページの作成は始まっていました。1月末頃手元に届く、文集ページの手書きの原稿を手分けして入力。そして、編集と先生方による校正を何度か繰り返した後、今期買い替えた新しいレーザー・カラー・プリンターで8000枚以上の印刷作業をこなし、ようやく2月20日、27日の製本作業にたどりつく。

多くのメンバーにお手伝い頂き、3月4日の秋期修了式贈呈をめざして、二日で製本が出来なければ28日土曜日はエンドレスで敢行するとの覚悟で作業が進みました。107ページに及ぶ56枚の印刷紙を部屋いっぱい並べ、帳合します。それを落丁がないか確認し、間違いが続くと「ミスが多いよ、しっかりやって!」と檄が飛びます。ホッチキス止め後の背表紙作りでは和紙を貼りますが、向きをどちらにするかも拘ります。うまく貼れていない背表紙は細かく修正を重ね、まさに奮闘です。

専門学校の後藤先生は二日もとも作業にフル参加、学校の職員さんにお茶とお菓子まで用意して応援して頂きありがとうございました。普段、廊下ですれ違うだけの学生たちの笑顔もアルバムで弾けています。メンバー達の苦勞も報われる出来栄でした。



3月8日(日)

第26回全国車いす駅伝競走大会 介助奉仕



天候に恵まれた3月8日(日)、全国車いす駅伝競走大会が行われ、京都クラブからは10名が介助活動に参加しました。宝ヶ池の国際会館前をスタートし西京極陸上競技場をフィニッシュに21.3kmを5名でリレーする競技ですが、今年で26回を数えます。

この大会は昭和63年に京都国体が開催された折、全国身体障がい者スポーツ大会「愛とふれあいの京都大会」で公開競技として実施され、翌年度から名称を「全国車いす駅伝競走大会」として継続開催されているものです。この大会を通じて障がい者の社会参加の高揚と障がい者スポーツの振興を図るとともに、社会の障がい者に対する理解と認識を深める事を目的としているもので、京都YMCAはこの大会をサポートする団体「ユース21」の一員として参加しており、ワイズメンズクラブ京都部はその協力団体との位置づけです。



京都クラブは昭和63年からこの活動に続けて参加しており27年になります。今年は第2中継所を京都めいぶるクラブの10名と共に担当しました。京都クラブに1月に入会した中村ワイズが初参加、神戸からは元京都クラブメンバーの中井氏が助っ人に来てくださり、高齢化したメンバーにとって力強い味方です。



顔馴染みとなった選手に「今年も会えたね、頑張ってるや」と声をかけるなど緊張している選手の気持ちをほぐすこともあります。熊本だったと思いますが、最初から参加していると話す選手もおられ、すごいなあと感じます。選手と共に西京極に着いて降車介助を済ますと、カレーと豚汁の昼食です。閉会式は今年も体育館ではなく陸上競技場で行われ、閉会すると今度は次の活動のためバスに乗ってJR京都駅へ向かいます。そこで降車介助を行って任務終了となりました。参加された皆さんお疲れ様でした。



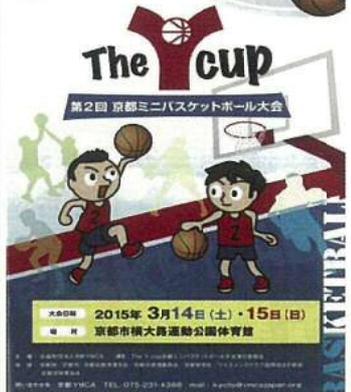
3月14日(土)

The Y cup

京都ミニバスケットボール大会 昼食支援

第3種郵便物認可

京



男子 与謝野 女子 城陽V



シュートを狙い、ドリブルで切り込む選手。京都市伏見区・横大路運動公園体育館

伏見でミニバスケット大会

「The Y cup」京都ミニバスケットボール大会が14、15日に京都市伏見区の横大路運動公園体育館で開かれた。バスケットボールが1915年に日本で初めて京都YMCAに伝わり、100年になるのを記念し、YMCAが昨年創設した。2回子は与謝野、女子は城陽が優勝した。

曾我部ミニバスケットボールの八木愛香さん「バスが良く回り、自分もフリースローがよく入って調子がいい」と話していた。

(川川真樹)

【男子】▽交歓トーナメント1回戦 日西ラビット64-18 大塚小7-18末六、京都YMCA 43-24 曾我部、同3位決定戦 曾我部28-25 末六、同決勝 大塚28-17 曾我部

▽決勝トーナメント1回戦 同部41-21 曾我部、与謝野50-24 山科、同2回戦 山科44-33 曾我部、同3位決定戦 山科44-33 曾我部、与謝野51-30 曾我部

【女子】▽交歓トーナメント1回戦 日西ラビット64-18 大塚小7-18末六、京都YMCA 43-24 曾我部、同3位決定戦 曾我部28-25 末六、同決勝 大塚28-17 曾我部

▽決勝トーナメント1回戦 同部41-21 曾我部、与謝野50-24 山科、同2回戦 山科44-33 曾我部、同3位決定戦 山科44-33 曾我部、与謝野51-30 曾我部

▽決勝トーナメント1回戦 同部41-21 曾我部、与謝野50-24 山科、同2回戦 山科44-33 曾我部、同3位決定戦 山科44-33 曾我部、与謝野51-30 曾我部



「The Y cup」京都府内の小学校やクラブチームの男女各8チームが参加した。初日は男女とも2ブロックに分かれてトーナメントを行い、2日目に各上位2チームが決勝トーナメントを、下位2チームが交歓トーナメントを争った。男子は与謝野、女子は城陽が優勝した。



本日の京都クラブのメニューはいつもの特製肉まん。営業時間は午前11時から午後2時まで。その間に試合が無く空いたチームがバラバラと配られた食券を持って受け取りに来る。10人ほどの子供たち全員が受け取った後、横一列に並んで「ありがとうございました」と大きな声でお礼を言うチームもある。さすがにスポーツの大会だけあって、その礼儀正しさには感心しきりのおじさん達。試食用を数にいれていなかったため温かい肉まんを試食することも出来ずに、午後2時過ぎには予定数を全て渡し終えて、とにかく寒かった会場をあとにした。

遠来の友、近隣の仲間と、伏見の酒蔵で酌み交わした弥生の例会

3月15日(日) 9名のゲストと入会式のEMC例会にDBC三島クラブも7名参加



雲行きが気になる3月15日(日)、伏見の酒蔵でDBC三島クラブのメンバー7名を迎えて野外例会が開催されました。新幹線で入浴した三島クラブのメンバー5名(お一人は前日から、お一人は事情により遅刻)と出迎えた多賀会長、杉本交流委員長をはじめ7名の京都クラブメンバー・メネット一行は、伏見大手筋商店街で蕎麦を食して軽く昼食を済ませてから伏見の街を散策し、今も旅館として営業している「寺田屋」でゆかりの坂本龍馬を偲び、月桂冠「大蔵記念館」を見学した後、例会場所である京の台所「月の蔵人」に移動し他のメンバーと合流しました。



今日は多くのゲスト・ビジターを迎えます。本日入会式を行う山本晋吾氏、入会候補者の西川将之氏、蔵立康博氏、日比聡氏、今井一宏氏、桃井賢氏、そして山本氏を紹介して下さった小谷博康OB、山野成信OB、谷口博昭OB、多賀メネット、それに三島クラブから青木利治会長はじめ、長澤禎文、石川敏也、大村俊之、小野和昭、藤田小夜子、鈴木忠雄の各ワイズで合計16名です。



横山ワイズの司会で、会長挨拶では多賀会長に続いて三島クラブの青木会長も挨拶。続いて行われた入会式では片山ワイズが立会人になり多賀会長が進行、山本氏が宣誓してめでたく入会となりました。パッチの装着は青木会長に行っていただき、本来でしたらここでメンバー各位と歓迎の握手攻めになるところですが、会場が狭いことと座り込んでいるため本日は省略です。

津村ワイズの食前スピーチに続いて、佐々木直前会長の発声で乾杯。食事をしながらビール、日本酒、焼酎など飲み放題が始まり、久しぶりに大人数での交流と懇談で盛り上がりります。お土産の交換やミニチュアパナーを贈呈するなど、和やかに進んで2時間はあっという間に過ぎてしまいました。閉会后、三島クラブのメンバーをJR京都駅までお送りし、再会を約束してお別れしました。

